

# れんけいNEWS

Vol.20

発行日：2023年5月

## 第4回北海道医療センター 連携登録医大会を開催して

北海道医療センター地域医療連携室長 清水勇一



6月1日に第4回北海道医療センター連携登録医大会をホテルニューオータニイン札幌にて開催することができました。新型コロナ禍のために第3回はWeb開催でしたので、実に3年8か月ぶりの対面開催となりました。院外から119名の出席をいただき、当院スタッフを含め、総勢200名という盛況な会となり、成功裏に終えることができました。参加された皆様に、心より感謝申し上げます。

第一部は講演会形式で、お二方の先生から骨粗しょう症治療、および地域の感染対策に関する大変有意義なご講演をいただきました。第二部より新型コロナ禍前と同様の懇親会形式で会を進めていきました。連携登録施設からは医師だけでなく看護師、MSW、事務担当者など様々な職種にご参加いただきましたので、現場の目線で地域連携の在り方を語り合う場となりました。また、連携登録施設の先生方からはテーブルスピーチという形で自施設の紹介や連携活動の様子をご紹介していただきました。当院からも消化器内科と整形外科から診療科紹介をいたしました。楽しんでいただけたのではないかと考えております。

必然的にマスクを外しての会食、意見交換となりましたので、その後の感染拡大だけが心配でしたが、杞憂に終わり安心しております。とても有意義な会と思われますので、今後も継続していく方針でおります。どうぞよろしくお願ひ致します。

第一部、講演1では、当院整形外科医長永野裕介先生より「地域で取り組む持続可能な骨粗しょう症治療」について講演いただきました。超高齢社会が進む中、『骨折を予防しQOLを維持していくことが大切』となります。一生継続していかなければならない骨粗しょう症治療に対し、整形外科・内科・歯科など地域で診ていく連携が不可欠になります。今後さらに地域での情報・知識の共有を図り、より具体的な連携を図れるよう取り組みをしていくことを提言されました。



講演2では、老蘇会静明館診療所大友宣先生に「5類移行で取り組む持続可能な地域の感染対策」についてコロナ対応のこれまでのまとめから、在宅ケア・高齢者施設の今後についてまでをご講演いただきました。

普段の組織体制を整え「組織力」をつけること、医療・介護の質を高める「ケア力」をつけること、「組織としてのレジリエンス」を持っていくことが重要であること、今後もあらゆる感染等に備えるために普段からの感染対策をしていきたいと思いますとお話がありました。

## 参加者様のご意見

- ・参加施設との情報交換もできて有意義でした
- ・日頃お世話になっている先生方とお話できてよかった
- ・顔を合わせて意見交換ができてよかった
- ・テーマを絞って都度開催されるとよいと思います
- ・毎年の開催を楽しみにしています
- ・講演の話が分かりやすく良かった
- ・各診療科紹介があってもよかった
- ・医療機関のパンフレット設置場所が見つけれなかった 等々



**第4回北海道医療センター連携登録医大会アンケートにたくさんのご意見を頂きました。今後の企画運営に生かしていきたいと思えます。ご参加いただき、職員一同感謝申し上げます。**

独立行政法人国立病院機構 北海道医療センター地域医療連携室スタッフ

北海道医療センター地域医療連携室は以下のメンバーを中心に運営しております。

院長：長尾 雅悦、室長：清水 勇一

副室長（看護師長）：有馬 祐子、地域医療連携係：齋藤 啓輔、副看護師長：鈴木 かおり

TEL：011-611-8116（連携室直通）、011-611-8111（代表）、FAX：011-611-8112（連携室直通）

ホームページ：<http://Hokkaido-mc.hosp.go.jp/area/index.html>

